

八街市協働のまちづくり検討会分科会報告書

分科会名	第1分科会		
テーマ	高齢者・障害者福祉		
開催日	平成26年 4月23日	検討回数	第2回

検討結果概要

1. 今回検討した項目

配布資料である「八街市における市民と行政との協働のまちづくり実態調査」から、高齢者に関わる活動状況や実態から現状把握をした。独居691人で死亡例1例あったということから、高齢者見守りネットワークの協力をテーマにしてみんなでどのように見守りしていったら良いのか分析した。防災の視点で高齢者障害者を包摂した見守りに繋げるという考え方が出てきた。

2. 今回の討議した内容(報告)

Aさん: 社会福祉協議会活動促進事業として、①あんしん箱設置事業②ひとり暮らし高齢者等、傾聴ボランティアの訪問③高齢者見守りネットワークの協力④高齢者向けサロンの実施⑤買い物弱者への配達販売の協力事業がある。

Bさん: それぞれの事業の説明をする。①あんしん箱設置事業については、災害時または入院する際、身の回りの日常品等を収納する「あんしん箱」を民生委員を通じて設置している。②ひとり暮らし高齢者等、傾聴ボランティアの訪問については、安否確認や孤立化防止を目的に、月1回程度高齢者宅をボランティアが訪問し、ひとり暮らし等の高齢者の話し相手になっている。ひとり暮らし等おおむね30人登録され、ボランティアは30人で訪問は2人1組となって動いている。今までは民生委員とボランティアで訪問していたが市の委託事業として行っており、必ずしも民生委員を通さなければいけないものではなくなった。③高齢者見守りネットワークの協力については、平成24年12月にスタートしたもので配達業者24事業者と警察等の協力を得て発足。通常の配達業務で異変を感じたら市へ連絡をする。平成25年度は10件の通報があり、死亡1件あった。⑤買い物弱者への配達販売の協力については、平成26年6月頃からの開始を考えている。交通弱者で川上・二州等南地区限定。商工課で受け付ける。3月末現在でひとり暮らし691人である。

Cさん: いろいろな事業があってもみんな知らないのではないか。

Bさん: 八街市高齢者保健福祉サービス一覧については9月頃に回覧している。回覧や広報で周知している。

Cさん: 回覧していることもわからない。独居の方優先にして配布してもらえるとありがたい。

Aさん: 老人クラブ活動事業は、高齢者の社会貢献となっている。日々元気でできるだけおもてに出て活動に参加する。病気になるなければ保険料もかからず市のためにもなる。高齢者は町内会を抜けると回覧が回らない。高齢者になりひとりになったから役員ができないので町内会を抜けますという人も多い。高齢者世帯を対象に実施しているものをどのように周知していくのか。

Dさん: 高齢者って何歳。

Eさん: 何歳というのではなく認知症の方をサポートしていく。

Aさん: シルバー人材センター支援や高齢者学級、各老人クラブとの交流会は、豊かな高齢期を過ごしたり異世代交流を目的とした活動になる。高齢者見守りというキーワードをもって進めていきたい。町内会という枠組みからいってどうか。

Fさん: 隣の人を知らない。

Cさん: 災害弱者に対して周り近所を見ていきたい。どういう身体の悪い人がいて、どう助けていくのか、災害として見ていく必要がある。去年12月に地区で災害が起きた場合どうしてこうかみんなで集まって話し合った。防災に対して意識が高い。防災をきっかけに隣近所が団結できる。普通だったら個人情報で教えてもらえないが防災だったら個人情報も知り得る。災害時の要援護者で災害時に逃げられない人を世帯調査した。世帯調査では、備考欄に車いす等記入してもらった。世帯調査をしたことによって自分の周りも見えてきた。60歳代70歳代が多く、0歳から10歳はあまりいない。

Gさん: 独居老人が町内会に入らない。役ができないから抜ける人が多いがサービスの回覧を見

ることができない。回覧が回らないと情報が入らない。災害をきっかけに家庭調査票を配ったらかなりの人が調査票に記入してくれた。独居や障害者の方など町内会に入らない方とどのように繋がっていったらいいのか。

3. 次回の検討方針

高齢者の居場所づくり、民生委員の視点について考えていく。